

令和2年度第1回岡崎市農業振興ビジョン推進委員会 書面会議録

1 書面提出期限

令和2年8月11日

2 書面提出委員の氏名

委員（7名）

祝田 学	委員	（岡崎女子短期大学准教授）
羽根田 正志	委員	（岡崎市農業委員会会長）
天野 吉伸	委員	（あいち三河農業協同組合代表理事組合長）
川澄 幸浩	委員	（岡崎市土地改良連合会会長）
小久井 幸子	委員	（愛知県農村生活アドバイザー協会 西三河支部ほほえみ会会長）
加藤 智子	委員	（あいち三河農業協同組合女性部部長）
杉浦 ちかよ	委員	（市民公募）

3 表決事項

会長の互選について

会長を祝田 学委員とし、職務代理者に羽根田 正志委員を指名する案に
賛成7 反対0

議題1 岡崎市農業振興計画策定について

令和元年度に行った基礎調査の結果に基づく骨子案に
賛成7 反対0

委員意見

- ・ 正確な一次資料である基礎調査を基に計画案が策定されており、問題ないと思う。
- ・ 地方に出た子供が相続で取得した田畑の管理ができず、耕作放棄地となっている。
- ・ 田畑が40年前に比較すると約4割減少している。
- ・ オペレータの支援：高齢化、後継者不足。
- ・ 農家の高齢化、子どもたちの農業離れ。
- ・ 高齢で後継がないので水路管理の役ができず、農地を売りたいが買い手がいない。
- ・ 面積の60%が山林と言う岡崎市において考えるべきことは、平地と山林の中間地点に里山と呼ばれる憩いの場を広く設置したいと思う。それにより獣害も減少するのではないか。
- ・ 支所単位でコンテナやプランターでの野菜栽培を企画してほしい。

- ・野菜作りなどの楽しさを教える人材の確保を要請。
- ・女性の農業経営者農業従事者を対象とした能力アップの講座を開設してほしい。
- ・先日初めてむらさき麦を作っている藤川宿に行き、むらさき麦の田畑が広がっている様子を見た。夫も感動してビデオカメラを回していた。若い人は知らないのではないかと思った。知ることによって農業の良さを認知してもらえ、認識している人たちにはより興味を持ってもらえるので、スタンプを集めて歩くイベントを催すのも手ではないか。今はコロナのことでやりにくいが、将来的なビジョンで見たいかがか。

議題2 専門部会の設置について

岡崎市におけるユニバーサル農業のあり方について検討する、ユニバーサル専門部会の設置について事務局説明の案に

賛成7 反対0

委員意見

- ・ユニバーサル農業はこれからの社会に必要な考え方だと思う。
- ・障がい者が働ける場を広めるには、彼らが戦力となる環境づくり、農福連携は申請者を労働力と評価し、障がい者自身の生きがいづくり
- ・農福連携に対して、社会全体の認知不足。彼らをささえる人材の確保も課題
- ・土に触れることは人としての欲求の一つだと思う。農業と言うと堅苦しいイメージになってしまうので、土をいじることのできる場所でなおかつ生産したものが食べられる楽しい機会を作りたいです。
- ・ユニバーサル農業を進めるには、推進体制を整備する必要があると思う。農業者、福祉関係者、農業参入企業、農大、市の担当者など。
- ・農業でユニバーサルに向いているのは、野菜、花、果樹だと思います。
- ・新聞記事で農林水産省が農家に時給500円補助する記事を見ました。コロナウィルス感染拡大で外国人実習生が来日できなくなり、人手不足に陥った農家が新たに人材を雇う場合の補助だそう。国にプラスして市からも何かできないのかとと思っていた。もともと、外国人に頼った結果がこれだと思うので、外国人に頼ることなく、日本の力だけで製品でもなんでも作っていくべきだと思うので、ユニバーサル農業は大変良いアイデアであると思います。元農家と言う人材は大変貴重な存在なので、ユニバーサル農業には多く参加して頂く努力は必要であると思います。